少子化地域の行政との協働による保育の魅力・情報を保護者に伝えるプロジェクト(大網白里市)

石井　章仁　准教授
(家政学部　児童学科)

１．プロジェクトの目的・方法

千葉県大網白里市は、もともとの少子化や人口減少に加え、コロナ禍の出生数減少もあり 15 歳未満の児童の人口が 4,698 人、人口の総数はここ 10 年間で 2,865 人減と、少子化のみならず、市全体で高齢化や人口減少が進行している。保育施設は、現在市立保育所 2 園、市立幼稚園 3 園、小規模保育施設 6 園、家庭的保育施設 1 園、認可外保育施設 1 園、私立保育所 6 園、私立認定こども園が 1 園などがあり、施設の老朽化の問題や園の統合化、定員を満たさない園など課題が多い。また、子育て支援については、市立地域子育て支援センター1 か所、子育て支援センター4 か所ある。市の子育て情報の提供は、ホームページに加え、子育て情報冊子の発行などあるが、ホームページ等の更新もさほど多くなく、保育の内容についての情報提供や理解が進んでいるとはいえない。

昨年度、本プロジェクトで千葉県東金市において、保育を伝える冊子づくりを行った（一昨年度は睦沢町で実施)。市立保育所・こども園の情報を学生が実際にその目や耳で感じて、写真に撮った画像を使い、紹介冊子を作成した。プロジェクトでは、公立園や地域子育て支援センターにおける、保育や支援の内容について取材し HP や冊子で市の保育を保護者に伝えたいと考えている。

本プロジェクトでは、児童学科の学生が、保育・教育行政の職員や現場の保育士等と協働し、保育の魅力を保護者に伝えることを目指す。単にアイディアを出すだけではなく、直接取材・編集し、保護者の目線に立った情報媒体づくりを行う。また、こうした取組み自体が保育現場の学習となり、学生の学びにつながると考える。

表 2　取材の内容

・取材先：大網白里市立白里保育所、大網白里市立増穂保育所、大網白里市立子育て支援館

① 第 1 次取材（予備調査含む）
- 9 月 13 日㈮：上記 3 施設を訪問（9:30-13:00 の間）し、予備調査及び園長等への取材（インタビュー）を行った。

② 第 2 次取材（上記 3 施設）
- 10 月 28 日㈪、11 月 25 日㈪：1 次取材をもとに、内容や構成、次回訪問の内容を検討した。
  11 月 28 日㈭：上記 3 施設に取材を行った。

③ 第 3 次取材（上記 3 施設）
- 12 月 9 日㈪：2 次取材をもとに、内容や構成、次回訪問の内容を検討した。
  12 月 12 日㈭：上記 3 施設に取材を行った。訪問時以外の場面の写真等の提供をいただいた。

２．取材のまとめと冊子「おおあみの保育おおあり！」の作成



図 2　表紙・裏表紙



図 3　目次・公立保育所・子育て支援館



図 4　遊びの中で見つける



図 5　みんなで遊ぶから楽しい



図 6　恵まれた自然



図 7　こだわりの食育



図 8　季節の行事



図 9　充実の子育て支援ほか

３．まとめ

本プロジェクトは、学生が主体となって、人口減少地域の保育の理解とその特色をいかに保護者に伝えられるかがポイントであった。今回学生は、現場の意見を聞きながら、１つの成果物を作成したことに意義がある。冊子および PDF データは、大網白里市立の２つの保育所、子育て支援館に納めた。ここから、地域の保護者にむけて発信できるようになればと考えている。